

開発途上国の庶民住宅の地震被害軽減に関する 国際ワークショップ開催のお知らせ

来る1月24日(木)に、建築研究所、防災科学技術研究所、政策研究大学院大学、三重大学は、大規模地震のたびに開発途上国において膨大な死傷者を発生させている主な原因となっている庶民住宅について、被害を軽減するための方策についてのこれまでの研究成果を共有し、これからの取り組みについて議論するための国際ワークショップを別紙のとおり開催します。ワークショップでは、12月下旬に防災科学技術研究所で実施を予定しているパキスタンから輸入したレンガを使った建物の振動台実験の結果報告、4ヶ国の住民の地震についての考え方をインタビューにより調べた調査の報告など、これまでアジア4ヶ国と共同で実施してきた研究の成果が報告されます。また、この講演会は、世界銀行のビデオ会議システムを利用して、日本の主会場とアジアの5ヶ国(日本、インドネシア、ネパール、パキスタン、トルコ)の副会場を結んで開催することになっています。

なお、この講演会は、共催4機関が共同で、昨年度より3カ年の計画で、文部科学省の科学技術振興調整費を得て実施している「地震防災に関するネットワーク型共同研究」の一環として実施されるものです。また、昨年度開催した「地震防災のための東京国際ワークショップ2006」と「ローコスト免震技術の開発に関する講演会」の概要は建築研究所のホームページで見ることができます。

<http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/tokyo-2007/index.htm>

<http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/tokyo-2006/index.htm>

(内容の問合せ先)

独立行政法人 建築研究所

国際協力審議役

氏名 榑府 龍雄

電話 029-879-0689 (直通)

E-mail narafu@kenken.go.jp

地震防災のための東京国際ワークショップ2008

<住宅の被害軽減を目指して>

1. 背景、目的

ペルー太平洋岸地震（2007年）、ジャワ島中部地震（2006年）、パキスタン北部地震（2005年）、スマトラ沖地震（2004年）などの悲惨な被害からも明らかなように、地震被害の軽減は地震地域共通の喫緊の課題の一つである。このため、本ワークショップを主催する4研究機関は、インドネシア、ネパール、パキスタン、トルコの地震国4ヶ国の研究機関と共同して、2006年度より、下記の3テーマ、7活動計画（コンポーネント）を内容とする「地震防災に関するネットワーク型共同研究」と題する研究開発プロジェクトに、文部科学省科学技術振興調整費を得て取り組んできた。

東京国際ワークショップ2008は、3テーマについてのこれまでの取り組みの成果の共有と今後の活動についての意見交換を目的として、5ヶ国の会場をビデオ会議システムにより繋ぎ、ウェブ・ストーリーミングにより世界各地からアクセスを得ながら、広範な地域、分野の方々の参加を得ながら開催しようとするものである。

<研究開発テーマ及び活動計画（コンポーネント）一覧>

テーマ1 建物のリスク管理システム

- 1-1 コミュニティによる地震リスク認識のメカニズムを内蔵するリスク管理システム
- 1-2 地震リスクに関する資料、データの収集、整理

テーマ2 実践的な耐震工法の研究開発

- 2-1 実践的な耐震工法のための実験研究
- 2-2 工学と建設工事との間のブリッジ構築
- 2-3 簡易でローコストの免震技術開発

テーマ3 技術の社会への定着方策

- 3-1 技術のコミュニティへの普及方策
- 3-2 技術普及のためのガイドブック、パンフレットなどの収集、整理

2006年度において、当該研究開発プロジェクトの一環としてビデオ会議システムを活用した国際ワークショップを開催した。その概要は、建築研究所ホームページの下記で公表されている。

<http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/tokyo-2006/index.htm>

<http://www.kenken.go.jp/japanese/information/information/event/tokyo-2007/index.htm>

2. 主催

独立行政法人建築研究所
独立行政法人防災科学技術研究所
政策研究大学院大学
三重大学

3. 後援、協力、連携機関（予定）

<後援>

内閣府

国土交通省

<協力>

世界銀行東京開発ラーニングセンター（TDLC）

国連地域開発センター

国連国際防災戦略事務局（UN/ISDR）

国連教育科学文化機関（UNESCO）

国際協力機構（JICA）

<連携機関>

インドネシア：バンドン工科大学、ガジャマダ大学、公共事業省人間居住研究所

ネパール：ネパール工科大学、ネパール国立地震工学協会（NSET）

パキスタン：プレストン大学、ペシャワール工科大学

トルコ：イスタンブール工科大学、中東工科大学、公共事業省地震研究部

4. 開催日時（日本時間）

2008年1月24日（木） 午後4時 - 9時（5時間）

5. 会場・時間

下記の5ヶ国を世界銀行グローバル・ディスタンス・ラーニング・ネットワークのビデオ会議システムで繋いで実施する。

主会場：世界銀行東京開発ラーニングセンター（内幸町富国生命ビル） <別添地図参照>

国内サブ会場：建築研究所（つくば市）

海外サブ会場：インドネシア（バンドン、ジョグジャカルタ）

ネパール（カトマンズ）

パキスタン（イスラマバード、ペシャワール）

トルコ（イスタンブール、アンカラ）

6. ウェブ・ストリーミング・サービス

世界各地からのインターネット接続により、ワークショップの視聴が可能です。

希望される方は、下記10により申し込み登録してください。開催日の数日前に、メールにてアドレスを連絡させていただきます。

7. 議事次第（案）（日本時間）

時間	タイトル	発表者等
第1部 16:00	<各会場の接続確認：ファシリテーター>	独立行政法人建築研究所 上席研究員 斉藤大樹
16:05	主催者代表挨拶	独立行政法人建築研究所理事長 山内泰之
16:10	キーノート・スピーチ	研究運営委員会委員長 石山祐二
16:25	地震防災に関するネットワーク型共同研究のこれまでの取り組みの概要	独立行政法人建築研究所 国際協力審議役 楢府龍雄
16:35	住民参加型の建物リスク管理システムの提案の概要	独立行政法人建築研究所 上席研究員 横井俊明
16:45	ネパールにおける住民参加型の建物リスク管理システムの試行実施の報告	ネパール工科大学 准教授 ジシュヌ・スベディ（ネパールより）
17:00	住民参加型の建物リスク管理システムのパキスタンにおける適用の取り組み	プレストン大学災害研究所プロジェクトマネージャー ナジブ・アフマッド（パキスタンより）
17:15	地震リスク認識に関する調査研究活動の概要	政策研究大学院大学 教授 岡崎 健二
17:25	インドネシアにおける地震リスク認識に関する調査結果の概要	バンドン工科大学 防災教育スペシャリスト ハルケンティ・ラハユ（インドネシアより）
17:35	ネパールにおける地震リスク認識に関する調査結果の概要	ネパール地震工学協会 事務局長 アモッド・ディキシット（ネパールより）
17:45	パキスタンにおける地震リスク認識に関する調査結果の概要	プレストン大学 ワダヨ バロック（パキスタンより）
17:55	トルコにおける地震リスク認識に関する調査結果の概要	イスタンブール工科大学 准教授 アルペール・イリキ（トルコより）
18:05	質疑応答	
18:20	休憩	
第2部 18:35	<ファシリテーター>	政策研究大学院大学 教授 岡崎 健二
18:35	実践的な耐震工法開発のための実験研究の概要	三重大学 教授 花里 利一
18:50	実大レンガの試験体振動台実験結果と解析の概要	ペシャワール工科大学地震工学センター 教授 カイサル・アリ
19:05	実験結果の個別要素法による解析の概要	独立行政法人建築研究所 研究員 中川 貴文
19:15	振動台実験及び解析についてのコメント	国内、国外の有識者からのコメント
19:25	質疑応答	
19:40	休憩	

第3部	<ファシリテーター>	独立行政法人建築研究所 客員研究員 斉藤憲晃
19:50	施工現場からの耐震性向上のアプローチ <工学と建設工事との間のブリッジ構築>	独立行政法人建築研究所 研究支援員 今井 弘
20:00	ペルーのアドベ及び枠組み組積造の建設 の実情<施工状況のモニタリング調査の概要>	NPO 法人都市計画・建築関連OVの会(EVAA) 理事 松崎志津子
20:15	インドネシアの枠組み組積造の耐震性 についての実験研究	ガジャマダ大学 イマン・サトゥヤルト (インドネシアより)
20:30	低コストの免震技術開発の事例紹介	中東工科大学 准教授 アフメット・トゥレル (トルコより)
20:40	簡易でローコストの免震技術開発の取 組み (コンポーネント 2-3 及び免震装置振 動台実験計画 (2008年3月) の概要)	独立行政法人建築研究所 主任研究員 山口 修由
20:50	質疑応答	
21:00	閉会	

8. 言語及び通訳

英語中心ですが、日本語の同時通訳を行います。(東京会場のみ)

9. その他

東京主会場では飲み物、スナックを用意します。

10. 参加の登録

参加を希望する方は、下記により、本案内に添付されている登録票をメール又はファックスにより建築研究所に**2008年1月10日(木)**まで送付し、参加登録をお願いします。開催日の数日前に確認のメールを送らせていただきます。

メールアドレス: tokyo-2008@kenken.go.jp

ファックス: 029-864-2989

<問い合わせ: 029-864-6641 (岡倉又は今井)>

11. 添付資料

- ・参加登録票
- ・会場地図 (東京開発ラーニング・センター、建築研究所、インドネシア副会場地図 (バンドン工科大学)、ネパール副会場地図 (貧困削減戦略資源センター)、パキスタン副会場地図 (JICA パキスタン事務所)、トルコ副会場地図 (JICA トルコ事務所、イスタンブール工科大学))

開発途上国における実践的な耐震工法の開発のための国際ワークショップ2007
Thematic International Workshop 2007 on Feasible and Affordable Seismic Constructions in
Developing Countries

2008(平成20)年1月24日(木)

January 24th, 2008

開催場所 Venue:

世界銀行東京開発ラーニングセンターTokyo Development Learning Center (TDLC), The World Bank

住所 Address:

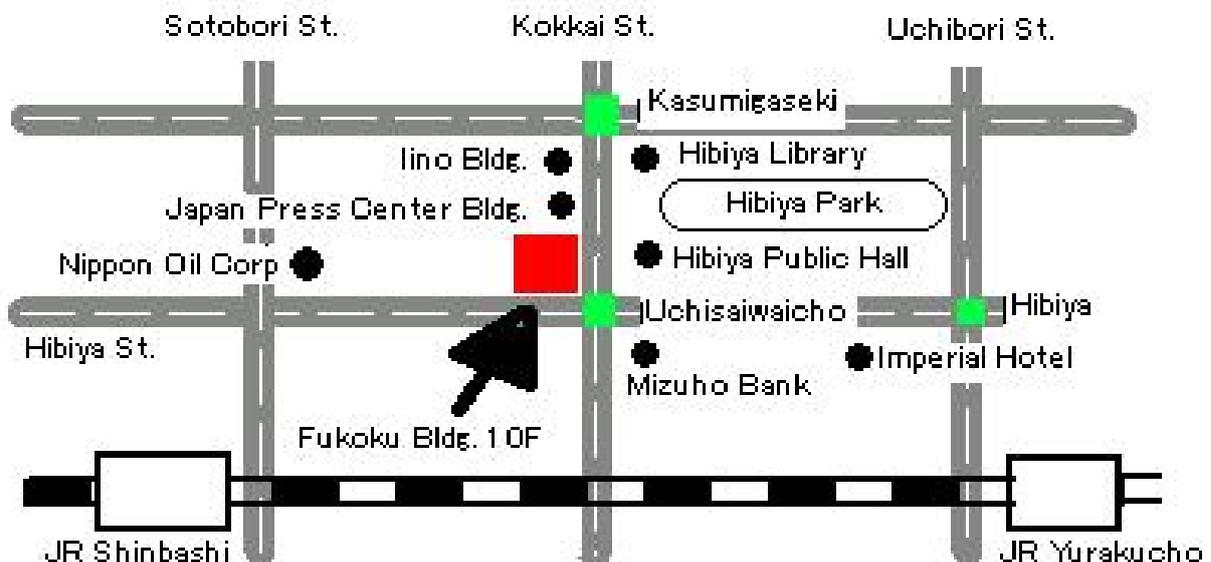
〒100-0011 東京都千代田区内幸町 2-2-2 富国生命ビル 10 階
10F, Fukokuseimei Bld., 2-2-2 Uchisaiwai-cho, Chiyoda-ku, Tokyo 100-0011

電話 Tel: 03-3597-6650(代表)

FAX: 03-3597-6695

交通 Transportation

- ・JR 山手線、京浜東北線 新橋駅 日比谷口 (JR Yamanote Line, Keihin Tohoku Line Shimbashi Station, Hibiya Exit)
- ・地下鉄 都営三田線 内幸町駅 A6 直結 (Subway Toei Mita Line Uchisaiwaicho Station, Exit A6)
- ・地下鉄 千代田線 霞ヶ関駅 C4 出口 (Subway Chiyoda Line Kasumigaseki, Exit C4)
- ・地下鉄 日比谷線 霞ヶ関駅 C4 出口 (Subway Hibiya Line Kasumigaseki, Exit C4)
- ・地下鉄 丸の内線 霞ヶ関駅 B2 出口 (Subway Marunouchi Line, Kasumigaseki, Exit B2)



Building Research Institute (BRI)

1 Tachihara, Tsukuba city, Ibaraki, 305-0802

MapURL: <http://www.kenken.go.jp/english/information/information/transport/access.html>

Contact person: Taiki Saito (tsaito@kenken.go.jp) Tel: +81-29-864-6751

